



たかはし議会だより

- 03 高梁国際ホテル専門人材の力を活用へ
- 04 請問ってなに？
- 08 議会だよりリニューアル



高梁人名録

蛭田 禎男（ひるた さだお）



(1918 ~ 2020)

「歴史には光もあれば、影もありますね。影の部分をしつかり検証しなければなりません。」
(引用：有漢点描)

禎男氏は昭和10年岡山師範学校（現岡山大学教育学部）を卒業し、3年間県南の小学校に勤務後、故郷の有漢町に帰郷しました。

当時、有漢尋常高等小学校（旧有漢西小学校）は昭和16年から有漢国民学校となり、教育体制が大きく変わりました。有漢国民学校は全校児童500名を超える学校でした。禎男氏は暗い戦時色が覆う世の中でも、担任として子どもたちに取材をさせ、「学校週報」の発行を続けました。戦局も厳しくなり、高等科の男子は「満蒙開拓青少年義勇軍」に応募して中国に渡る生徒も少なくありませんでした。中には戦死する生徒もあり、教員としての自責の念が日記の中に記されています。昭和20年8月15日終戦を迎え、民主教育となり、新制教育制度6・3制が始まりました。禎男氏も新制有漢中学校の設立のために懸命に携わりました。自身も音楽科・国語科の教員免許を取得するために研修会にも参加しなければならぬ多忙な日々が続きました。年々、有漢中学校は体制が整えられ、昭和24年には校歌が完成し、一体感が生まれました。禎男氏は小・中学校に40年間勤務し、有漢西小学校の校長を最後に退職しました。退職後は有漢町の社会教育指導員として町の生涯教育にも尽力しました。

その傍ら自費出版として「有漢点描」シリーズを9冊発行し、有漢の「学校」「民俗」「生活」「先人の足跡」等が克明に記述されています。まさに有漢の生き字引でした。子どもを愛し、有漢を愛した禎男氏でした。



次回議会スケジュール（予定）

9月
September

最新の情報は
ホームページで
ご確認ください。

※本会議・委員会は
午前10時開会の
予定です。

日	月	火	水	木	金	土
30	31	1	2 本会議	3	4	5
6	7	8 一般質問	9 一般質問	10 一般質問	11	12
13	14 議案質疑	15 委員会	16 委員会	17 予備日	18	19
20	21	22	23	24	25 本会議	26
27	28	29	30	1	2	3

傍聴案内



場 所

高梁市議会議場
(高梁市役所5階)



予約不要

事前予約は不要です。
(団体のみ要事前連絡)



入退場可

途中での入退場も
可能です。



入場方法

入口で必要事項記入
後、傍聴ができます。

※入口に掲示している議場でのルールがあります。
傍聴の際はマナーを守ってください。

表紙について

本園では、0～5歳児6名の少人数だからこそできる、一人ひとりに寄り添う保育を実践しています。地域の皆様の温かい支えのもと、「げんき・やさしい・かんがえる子ども」を育み、子どもも家族も安心して笑顔で過ごせる備中保育園を目指します。



7月参観日「親子で泥んこ遊び！」

ご意見を募集します！

議会だよりへのご意見・ご感想をお寄せください。皆様の声を今後の広報活動に生かしてまいります。



ご意見はこちらから

特集 高梁国際ホテル 専門人材の力を活用へ



令和8年6月定例会では、高梁国際ホテルの経営基盤の強化として、総務省の「地域活性化起業人制度」を活用する予算が可決されました。

1| 地域活性化起業人制度とは？

- 都市部の企業で経験を積んだ社員を一定期間自治体へ派遣し、その専門知識や経験を地域づくりに生かす総務省の制度です。
- 行政では十分な対応が難しい専門分野に、民間企業のノウハウを取り入れることで、新しい視点から地域の課題解決を進めることを目的としています。
- 派遣期間は 6 か月～最長3年間
- 企業で培った経験を地域に還元し、自治体職員や地域事業者と連携しながら取り組みを進めます。

2| 高梁国際ホテルの経営基盤の強化

高梁国際ホテルは、市が物件を所有する市内唯一のシティホテルです。宿泊機能だけでなく、会議や各種宴会、観光客の受け入れなど、地域経済を支える役割を担っています。

今回、市ではこの制度を活用し、高梁国際ホテルへ派遣する専門人材2名を受け入れることとなり、ホテル経営に関する専門的な知識やノウハウを取り入れ、経営改善につながることを期待しています。

3| ホテル経営に対する市の関わり

- 市はホテルの経営を直接行う立場ではない。
- 市有施設としての役割を踏まえ、専門人材や金融機関などから取り組み状況の報告を受けながら、必要な確認や助言を行う。
- 専門人材の派遣期間は 3 年間で予定しており、その期間の経営改善の取り組み状況を踏まえ、今後の方向性を判断していく考えが示された。

4| 当該制度などを活用した人材の受け入れ状況

【ANA】令和2年4月～令和5年3月
観光関係組織の強化、人材育成、経済効果に繋がる観光戦略確立

【JR 西日本】令和3年10月～令和7年3月
観光プロモーションの企画・調整

【CCC】令和6年6月～令和9年3月
高梁地域 DMO の基礎的組織づくり

【ABC Cooking Studio】令和7年4月～令和9年3月
市の特産品の魅力の向上と情報発信

【クリエイティブ教育ラボ】令和7年4月～令和9年3月
小・中・義務教育学校における ICT 活用のアドバイス

【穴吹エンタープライズ】令和8年8月～令和9年3月
高梁国際ホテルの運営体制の強化支援

6月定例会

議論のポイント

令和8年6月定例会に提出された議案を、Q&Aでわかりやすく紹介します。

議案は、このような流れで審議されます



市民
文教

議案第 72 号

高梁市病院・診療所等
使用料及び手数料条例の
一部を改正する条例

Q

入所者の食費を現行 760 円から 800 円に引き上げる理由は？
また、今後の物価高に対応できるのか。



A

食事療養費は材料費などを考慮して国が基準を示しており、基準額の引き上げを受け、改正するものです。今後、物価高騰等により国の基準の改正があれば、同様の対応としたい。

総務
産業

議案第 73 号

令和8年度高梁市
一般会計補正予算
(第1号)

Q

穴吹エンタープライズの行政との連携実績は議会で説明があったが、今まで行政との事業が失敗した事例、撤退・契約が失敗した事例などリスク部分の調査はしているのか。

A

信用調査を行っている。その中において民間であるため、過去の財務状況等もあるが、失敗という記載は確認されてない。

Q

本会議で市は直接経営には関与せず報告体制を取ると答弁があった。その報告体制に関しては議会に説明して説明責任を果たすとのことだったが、経営改善の過程と議会への説明はどれくらいの期間で考えているか。

A

株式会社高梁国際ホテルからは、毎月の試算表や収支報告をいただいている。議会には、今までも普通貸借契約の更新のタイミングで説明してきた。また、賃貸借契約に伴った家賃に関する覚書を3年に1度交わす形になっており、節目節目で議会に説明する。



議員はどう判断した？

賛否が分かれた各議案・請願の採決結果

○：賛成 ●：反対

議案・請願番号	議案名	榎	前野	川上雅	藤岡	小黒	長田	松岡	平松	金尾	森	宮田好	小林	倉野	川上博	宮田公
議案第 72 号	高梁市病院・診療所等使用料及び手数料条例の一部を改正する条例	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願第 3 号	教職員定数改善と義務教育費国庫負担率引き上げをはかるための、2027 年度政府予算に係る意見書採択の請願について	●	●	●	○	●	●	○	●	○	●	○	●	●	●	●
請願第 4 号	高梁市人と猫の調和ある共生に関する条例制定の請願書（継続審査）	●	○	○	○	○	○	●	○	○	○	●	○	●	●	●

※議長は採決に加わりません。他の議案は全会一致で採択となりました。

議決
について

採 択：請願の内容を妥当と認め、賛同する意思を決定します。
不採択：請願の内容は妥当と認められないと判断します。
継続審査：さらに調査や検討のため、審査を継続します。

議会全員協議会

5月22日に議会全員協議会が開催され、執行部から「ごみ処理体制の今後の方向性（検討状況）」について」の報告がありました。



1| 背景と課題



施設の老朽化
段町の「ごみ焼却処理施設」は運用開始から27年経過。老朽化が進んでおり、更新の検討が必要な状況です。



人口減少とごみ排出量の減少
人口減少やごみ減量化の推進に伴い、ごみの排出量は減少する一方で処理費用は増加。施設の老朽化に伴う維持管理費も増加しており、将来負担が確実に増加していきます。



整備に長期間を要する
施設整備には多額の費用と長い期間が必要で、計画的な対応が求められます。



最終処分場の制約
松原町松岡の「一般廃棄物最終処分場」は埋立残余年数は約10年と想定され、今後の新たな整備にも長期間を要します。

令和3年度策定の「岡山県ごみ処理広域化・ごみ処理施設集約化計画」を基本に、令和7年度からは高梁市・新見市・吉備中央町の枠組みによるごみ処理体制を検討。

2| 検討している処理方式

1 広域処理
近隣自治体と連携し、共同で施設を整備・運営



2 単独処理
市単独で施設を整備・運営



3 外部処理委託
民間事業者などへ処理を委託



4 官民連携
民間の資金やノウハウを活用して施設を整備・運営



5 現状施設の延命化
既存施設を長寿化し更新時期を先送り



処理方式	主なメリット	主なデメリット
①広域処理	事業継続性が高い スケールメリットが期待できる	建設費・維持管理費の負担が大きい 用地選定・住民合意形成が必要
②単独処理	各自治体で独立した運営が可能 現行体制に近い方式	財政負担が最も大きい スケールメリットが得られない
③外部処理委託	建設費を大幅に抑制可能 ごみ量減少への柔軟な対応が可能	委託先事業者の確保が必要 価格変動や事業者リスクへの対応
④官民連携	ライフサイクルコストが最も低い 発電や熱利用等エネルギー活用が可能	全国的な実施事例が少ない 制度調整や事業者確保が必要
⑤現状施設の延命化	更新まで期間を確保できる	維持管理費増大、突発的な故障リスク

請願ってなに？

請願について

請願は、市民の皆様が市政に対して意見や要望を直接議会に提出できる大切な制度です。
市議会は、この内容を審査した上で、採択・不採択を決定します。

請願の特徴

- 誰でも提出ができます。（紹介議員が必要です。）
- 市政に関する意見や要望を議会に届けられます。
- 議会で審査・議決され、結果が請願者に報告されます。
- 採択された場合、関係機関へ意見書等を提出します。

令和8年6月定例会に上程された 2 件の請願

請願第3号

教職員定数改善と義務教育費国庫負担率引き上げをはかるための、2027年度政府予算に係る意見書採択の請願について

紹介議員 宮田 好夫

賛成意見（要旨）

教職員を増員することは、学校現場で働く職員からも求められてる。全国同じように少人数学級が実現され、併せて教職員の処遇改善が図られるよう、国に要望していくべきだ。

反対意見（要旨）

請願は、主に本市の現状に照らして判断すべきである。高梁市では、既に35人学級を実施していることなどを考えると、現時点で一律に国へ要望する段階にはない考える。

請願第4号

高梁市人と猫の調和ある共生に関する条例制定の請願書（意見陳述あり）

紹介議員 森 和之 藤岡 善行
平松 久幸 金尾 恭士

継続審査に対して賛成意見（要旨）

岡山県で既に人と動物の共生に関する条例が制定されている。その中でこの請願の趣旨を、より良い形で実現していくためにも、前向きに内容を精査し、慎重に進める必要がある。

継続審査に対して反対意見（要旨）

岡山県に条例はあるが、猫に関する内容は十分ではない。高梁市が条例を制定し、飼育マナーを周知するとともに、相談窓口を設置することが、猫と住民が共生できるまちづくりにつながる。

意見陳述者へのインタビュー

請願第4号について、提出者である「野良猫を作らない会」の仲村美名子さんにお話を伺いました。

猫の保護活動を始めたきっかけを教えてください。

「13年前に職場に猫が迷いこんだのがきっかけで、野良猫に関わるようになりました。そのうち猫が多くなって一人では大変になり、猫好きの方々に声を掛けて一緒に活動するようになりました。」

これまでどのような活動を行ってこられましたか

「里親が780匹くらいで去勢・避妊手術が282匹です。メス猫を避妊すればオス猫が集まらないので喜ばれています。」

猫問題の相談も多くあるのでしょうか。

「年100件近くあります。中には私たちではどうにもならないこともあり、その時は申し訳ないという気持ちになります。」

野良猫を増やさないためにはどうしたらいいですか。

「猫は自分で餌を取って食べていますので、餌をやらなければ減るわけではありません。野良猫にさせないために、飼い主が去勢・避妊手術を行い、完全室内飼育と生涯飼育を必ず行うことです。」

貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。



委員会で調査のため訪問しました

関わる全ての人の 当事者参加を原動力に

5月18日 市民文教委員会で「P.P.P. オールスターズ！
布寄」を訪問し、管内行政視察を行いました。



ヴァンベールの風景（旧農村公園）

1| 視察の目的



市内で取り組まれている
農福連携の就労継続支援 B 型事業所
を調査研究するため

2| インタビュー（堀 節夫さん 高梁地域企画室長）



「社会福祉法人 P.P.P. の西江理事長は成羽町長地の生まれで、ふるさとの発展のため
何らかのお手伝いがしたいと常々申ししており、市と協議の上、令和元年から事業展開する
こととなりました。事業開始以来、就労継続支援 B 型事業所やグループホームなど福祉事
業だけでなく、地域づくり事業にも積極的に参加してまいりました。

市との信頼関係に基づき、市から譲渡していただいた施設を改修し、新たな活動拠点へ
と生まれ変わっています。椎茸栽培のシイタケハウス、癒しの複合施設ヴァンベールなどが
整備され、旧布寄小学校も新たな福祉、地域の拠点としてリニューアルする予定です。」

3| 就労継続支援 B 型事業所とは？

就労継続支援 B 型事業所は、障がいや病気などによ
り一般就労が難しい方が、自分の体調や能力に合わせ
て働ける福祉サービスです。雇用契約は結ばず、軽作
業などを行い、その対価として工賃が支払われます。
生活リズムの維持や社会参加、就労に向けた支援も行っ
ています。



しいたけハウスの視察



委員会では議会休会中も所管の事業について調査を行なっています。
市民の皆様からのご意見等受け付けています。

ご意見は
こちらから



議会ニュース

市民文教委員会 管外行政視察 5月12日～5月13日

高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまち
づくりに生かすため、愛知県^{やとみ}弥富市と三重県^{こもの}菰野町を視察しました。

弥富市では、買い物支援や通院の付き添い、見守りなど生活支援サービスの
仕組みや、利用料金、低所得者への助成制度を学びました。また、菰野町では
「公共交通で気軽におでかけしたくなるまち」を基本方針に、NTTドコモと連携
して導入した MaaS「おでかけこもの」の運用や、ICカードによる利用促進、
スマートフォン予約の普及に向けた丁寧な利用支援に関する説明を受けました。

行政と地域が一体となって、高齢者をはじめ誰もが安心して移動や買い物が
できる環境づくりに取り組んでいる点に注目しました。

委員会としても今回の視察を生かし、買い物支援や地域公共交通の充実に向
けた調査・研究を進めていきます。



総務産業委員会 管外行政視察 5月14日～5月15日

高梁市の観光振興と地域活性化に生かすため、広島県^{たけはら}竹原市と山口県^{ながと}長門市を視察しました。

竹原市では地域 DMO を中心に、住民・事業者・行政が地域ブランドを
共有し、観光・移住・産業振興を一体的に進める取り組みを学びました。また、
長門市では専門人材を活用したデータに基づく観光戦略や、住民満足度を重
視した観光まちづくり、温泉街全体の再生事業に関する説明を受けました。

両市に共通していたのは、観光を単なる集客ではなく、地域の暮らしや産
業の発展につなげる「地域経営」の視点で取り組んでいる点でした。

今回の視察で得た知見を参考に、高梁地域 DMO の機能強化や、住民・
事業者と連携した持続可能な観光まちづくりの推進に生かしていきます。





公共交通施策について

Q 三重県菰野町の研修視察で学んだことを参考に問う。高梁市 MaaS の実用化に向けて取り組むべきではないか。

A 次世代交通システムについて、高梁市地域公共交通計画の中に組み込んでいくことを明記しており、すぐには導入できないが、今後も研究検討していく。



菰野町版 MaaS サービス画面



マース MaaS (Mobility as a Service)

電車、バス、タクシーなどのあらゆる交通手段を IT でつなぎ、経路検索から予約・決済までを一括して行う仕組みです。

関係人口について

Q 関係人口の「見える化」に取り組むべきではないか。

A 総合計画の後期基本計画で関係人口の施策展開として、「見える化」に向け「ふるさと住民登録制度」の活用を視野に入れている。

観光施策について

Q 滞在型観光の取り組み「風の通り道プロジェクト」を市として支援していくべきではないか。

A 第1回の全体会議には市担当課がオブザーバーとして参加した。今後、プロジェクトの進捗を見守りながら、市として必要な助言や協力をしていく。

会派代表質問

今後妊婦健診は市内で受けられるのか？

ながた のぶこ 長田 伸彦 (高梁政志会)

市内での妊婦健診と通院負担軽減について

Q 市内唯一の産婦人科医院が閉院し、妊婦健診も市外へ通院しなければならない状況である。市内で妊婦健診を受けられる環境をどう確保するのか。

A 市としても大変重く受け止めている。具体的な内容は公表できる段階にないが、早期に市内で受診できる環境づくりに尽力していく。

Q その環境が整うまでには時間を要する。現状市外への通院を余儀なくされている妊婦や家族に対する移動費負担の補助をすべきではないか。

A 現在は「出産・子育て応援金」の活用をお願いしたい。交通費助成については、どの程度困っている方がいるのかリサーチを行い、今後の検討につなげていく。

中学生のトロイ市派遣事業について

Q 姉妹都市トロイ市（アメリカ）への派遣事業について、例年どおりであれば来年が実施年であるが、どうするのか。

A 令和 9 年度の派遣予定はない。令和 10 年度以降については、これまでの成果や他施策との優先順位、トロイ市との交流のあり方など総合的に勘案し、継続ありきではなく「ゼロベース」で検討する。

イングリッシュキャンプを拡充しては

Q 英語や異文化に触れる機会や市の魅力推進につなげるため、国内留学として展開してはどうか。

A 吉備国際大学や地域で活躍する外国人など、本市の特色を生かしながら英語や異文化に触れる機会の充実を図ることで、国内留学のような学び場づくりにつなげていきたい。



議会だよりをリニューアルしました



議会広報公聴特別委員会では、より多くの市民の皆様に読んでいただける議会だよりを目指し、紙面をリニューアルしました。

基本指針

1

議会や市政を身近に感じられる紙面づくり



専門用語や行政用語はできる限り分かりやすく表現し、市民目線を大切に紙面づくりに努めます。議会では何が話し合われ、暮らしにどのようにつながるのかが伝わる構成となるようにします。

2

誰もが見やすく、分かりやすい紙面づくり



子どもから高齢者まで、多くの人が読みやすいユニバーサルデザインに配慮します。文字の大きさ・配色・写真・レイアウト・表現方法などについて、読みやすさと分かりやすさを重視します。

3

市民とともに作る議会だより



議会からの一方的な情報発信ではなく、市民の声や意見、地域の話題なども取り入れながら、市民に親しまれる紙面づくりを目指します。必要に応じてアンケートや意見募集などを実施し、市民の視点を編集に生かします。

一般質問の表記について

- 一般質問は、質問と答弁の内容が分かりやすく伝わるよう、**Q & A** 形式で表記しています。
- 市長・部長など、答弁者が異なる場合でも、市の見解として掲載しています。
- 議員から市への提案や要望は **R** (リクエスト) として表記しています。

SNS 運用について

これまで運用していた Facebook・X(旧 Twitter) について、情報発信手段の見直しに伴い、この度更新を停止します。

今後は、高梁市公式 LINE を活用し、議会に関する情報を発信していきます。



高梁市公式 LINE

視察に行きました

読んでもらえる議会だよりを目指して、調査・研究を行いました。

2026.2.4 水曜日 ~ 2026.2.5 木曜日

和歌山県 橋本市

奈良県 王寺町



一般質問の表記について

市長・部長など、答弁者が異なる場合でも、市の見解として掲載しています。議員から市への提案や要望は R(リクエスト)として表記しています。

しあわせを実感できる 市政につなげるには

ふじおか よしゆき
藤岡 善行



市営住宅・国保税について

- Q** 市営住宅入居時の連帯保証人制度の廃止について、周知の方法はどのようにしているのか。
- A** HP、広報たかはし4月号で周知している。
- Q** 連帯保証人の解除をしないでいると、連帯保証人の機能が継続されるのか。
- A** そのとおりである。
- Q** 入居者や連帯保証人に対して、解除通知等は告知・通知しないのか。
- A** 現に連帯保証人である人は継続することを原則として規定しており、現時点では考えていない。
- Q** 国保税の減税として世帯一律2万円の引き下げを求め、さらには18歳まで均等割の賦課の廃止を求めるがどうか。
- A** 基金取り崩しで一律2万円は（単年度としても）難しい。18歳までの均等割については5割負担を実施している。
- Q** 国保税の納入困難世帯に対して、親身な対応が必要だと思うがどうか。
- A** 減免の対象となるか詳細な状況の確認に努め、減免にならない場合も分納等の納付相談に応じている。

不登校について

- Q** 不登校の子どもや子どもを支える保護者への具体的な支援策について、「つらい時には学校を休むことも必要だ」と市長及び教育長からメッセージを発信するべきでは。
- A** 必要に応じて発信していく。
- Q** これまで、学校に行きづらいと感じている教職員もいた。子どもや保護者、教職員に対しても適切な支援をお願いしたい。
- A** 不登校の問題は、学校関係者、教職員だけではなく、関係機関も含めた「チーム学校」として取り組んでいく。

吹屋のPRにはゆかりのある 民間企業の活用を

こばやし しげき
小林 重樹（高梁政志会）



ジャパンレッド発祥の地 吹屋に対する観光振興について

- Q** 観光地吹屋として足りないものは何か。どのように確保していくのか。
- A** 吹屋観光の最大のウイークポイントはアクセスの難しさであり、喫緊の課題である。対応策としてマイカーやレンタカー利用者には、迷いやすい分岐点への看板の増設、観光地としての吹屋への誘導が直感的に分かるデザインの改善を図っている。また、備中高梁駅から吹屋までのアクセスルートの動画を撮影してHP等で紹介、アクセスルートが事前に確認できるようにしている。路線バスを利用する観光客には、駅やバスセンターでの案内表示も今以上に改善していく。
- Q** 「森の芸術祭」に向け、観光客、インバウンド等へのPRや誘致が必須条件となるが、吹屋にゆかりのある民間企業の活用を図ったらどうか。
- A** 吹屋には住友グループの母体である「泉屋」が銅山経営を行ったという歴史や、三菱グループの創始者「岩崎弥太郎」が銅山で産業を興したという歴史がある。そういった歴史的なものも踏まえてさまざまな形で支援いただけるよう幅広く研究、検討していきたい。また、それを通じて企業のPR等をしていただければと考えている。



吉岡銅山跡

市街地の町並みは危機的状況！ このままで良いのか

もり かずゆき
森 和之



学童保育について

- Q** 学童保育の運営業務が民間委託され、今年度末には契約期間が満了するが、次年度の事業者についてはどうするのか。
- A** これまでの運営実績や、児童・保護者への影響を踏まえた上で、適切な方法により決定していく。また、先行自治体の事例も参考にしながら、どのような選定方式が望ましいかについて検討を進めていく。

観光について

- Q** 市街地の町並みを歩けば、土堀や土壁が落ちているところや老朽化してそのままになっているところが目に留まる。町並みを守るためには細やかな支援が必要ではないか。
- A** 建物の多くは個人所有で市が主体となって整備を行うことには制約がある。そのため、現在は歴史的町並み保存地区整備事業補助金の活用を促し、周知に努めている。自分たちの資産財産である古い町並みを維持して未来に伝えていくという思いを持ってもらえるよう、市の景観計画や補助制度について啓発に取り組んでいく。

市街地の町並みについて石田市長の考えは

- Q** 住民の意識だけでは町並みは守れないと思う。石田市長の考えを聞きたい。
- A** 歴史的風致がこの町にとって要らないとは思わない。必要だと思っているが財源には限りがある。使える財源、予算は使った上で歴史的な風致、伝統や文化を維持していきたい。また、変わろうとするところについては、市街地に必要なものが見極めて支援をしていく。

伯備線で地域活性化を！！

みやた よしお
宮田 好夫



高梁北中学校の統合について

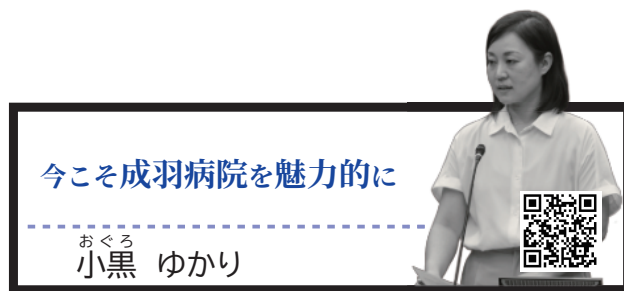
- Q** 統合に向けてのスケジュールは。
- A** 令和10年度の統合に向けて、4月に小・中学校のPTA、5月には地域に説明し、6月29日に再編準備委員会を開催予定としている。
- Q** 通学方法はどうか。
- A** 公共交通が基本だが、実態を見ながら検討していく。

外国人との共生について

- Q** 住民基本台帳によると外国人は900人台で推移している。この方々への情報伝達はどうしているのか。
- A** 本市の外国人住民の割合は人口比3.6%で、県内平均2%に比べて高い。このため外国人向けに、市のHPでは「やさしい日本語」による表記に努めるとともに、自動翻訳機能も導入している。また月2回、日本語教室も開催し、生活支援に取り組んでいる。避難所対応ではタブレットなどの通訳機能を活用している。

伯備線全線開通100周年について

- Q** 以前の一般質問で、伯備線全線開通100周年に向け、総社市と新見市と連携して記念事業や観光誘客事業を行いたいとあったが、進捗状況はどうか。
- A** 昨年、総社・高梁・新見連携協議会を発足させ、観光客誘致に向けた施策や撮り鉄（鉄道写真愛好家）対策の事業を展開している。
- R** 木野山駅では、今年が100年なので駅舎に看板を置き、新聞記事や写真を展示した。全線開通100年には各駅が一体感を持って祝賀できることも考えていただきたい。

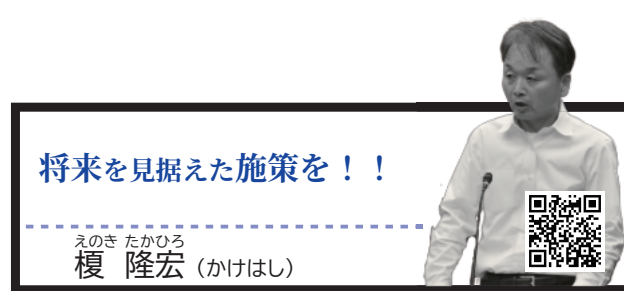


今こそ成羽病院を魅力的に 医療体制について

- Q** 妊婦健診を受けるため市外へ通院している方々の現状を、市はどのように受け止めているのか。
- A** 市内で妊婦健診が再開できる環境づくりは喫緊の課題であり、早急な対応が必要と認識している。
- Q** 成羽病院の魅力化として、更年期障害に対する保険適用となるプラセンタ療法の皮下注射を取り入れてみてはどうか。
- A** 実施の有無は明言できないが、患者のニーズを把握し、需要を見極めていくことが大切だと考えている。

有漢学園における児童・生徒への 支援体制について

- Q** 先生方が子どもたちと向き合う時間の確保は、学校現場の努力だけでは限界があるのでは。教育委員会としてどのような支援を行っているのか。
- A** 公務のDX化や教師業務アシスタント、養護教諭の複数配置は効果があると考えている。限られた人員の中ではあるが、現在の支援体制を維持しながら取り組んでいきたい。
- Q** 毎日安心して通えることが、結果として選ばれる学校につながると考えるがどうか。
- A** 安心して通え、自分らしく過ごせる学校であり続けられることが大切である。一人ひとりの子どもにとって、楽しくわくわくする空間が一番である。支援を充実させていく。



将来を見据えた施策を！！

えのき たかひろ
榎 隆宏（かけはし）

観光施策について

- Q** 観光協会への市職員派遣をどう評価しているのか。観光振興計画を策定しないのか。
- A** 派遣は平成27年度から続き、観光協会の統合支援や人材育成等で一定の成果があった。今後は協会の自主性を高めつつ、派遣のあり方を検討したい。観光の方針は総合計画で示している。森の芸術祭に市民一丸で取り組み、成功させることが今後の観光の実行計画につながるものと考えている。

水道事業の職員体制について

- Q** 成羽地域局に水道担当を集約した「西拠点」をどう評価するのか。技術職員の確保・育成が急務ではないのか。
- A** 若手への技術継承や効率化を目的に集約した。相談・協力がしやすくなり、一定の成果がある一方、事務処理や通信環境に課題も残っている。技術職員の採用は難しいが、研修を実施することや、若手とベテランがペアを組むことで技術継承を進めたい。

高校の魅力化について

- Q** 「高校魅力化推進プロジェクトチーム」の成果は何か。今後どう取り組むのか。
- A** 高校の取り組みに加えて、市役所の8部署が連携した全庁横断型支援により、現時点において県立2校の存続を実現した。この取り組みは全国から注目され、国や他自治体の視察が来ている。今後は産官学等の連携による「高校魅力化コンソーシアム」を構築し、魅力化を進める体制を整えたい。



学校給食の適温提供へ 保温対策を強化

かわかみ まさみ
川上 雅美

学校給食について

- Q** 学校給食の民間委託後の現状について問う。
- A** センターの職員と事業者での日常の書面での協議、毎日のミーティングも実施しており、給食の品質、衛生面は維持できていると考えている。2か月経った現在、円滑な業務運営ができています。
- Q** この度、川上学校給食センターが統合され、今まで配食を受けていた学校の保護者から「給食が冷めている」との指摘があるが、給食センター統合後の温度管理をどのようにしているのか。
- A** 指摘の内容については、給食センターでも把握している。昨年度まで川上学校給食センターが配食をしていた学校の一部の保護者から汁物が少しぬるいのではないかとという指摘があった。また検食をしている学校からも、もう少し温かければというようなコメントがあった。
- Q** 食缶の保温カバーをかけるなどの検討はできないか。あるいは他に市として、今すぐにできる対策として何か検討しているのか。
- A** 汁物などを配缶するとき、現在は常温の食缶に配缶をしているが、温度低下を緩やかにするために使用の直前に食缶を一度温めて入れることにより、効果が出るのではないかとすることを今検討している。また、保温カバー等も研究をしたいと思っている。年度の後半には気温の低い時期が来るので、それまでに追加の対策をしていき、少しでも改善を図っていきたい。



配送車への給食コンテナの積み込み



消防・救急体制の充実を

まつおか たかお
松岡 隆雄

西分駐所 消防・救急体制の強化

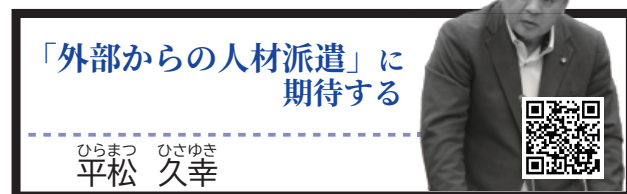
- Q** 市の西部地域で豪雨災害などにより火災・救急・救助事案が同時多発した場合、現在の体制で対応可能なのか。その根拠を併せて示してほしい。
- A** 西分駐所は現在3名体制で運用しているが、高機能指令システムによる車両運用、消防団との情報共有、広域応援体制、#7119やドクターヘリの活用により、消防本部全体として必要な消防・救急体制は確保している。

有漢・中井地域における消防・救急体制の強化

- Q** 有漢・中井地域の消防力強化について、市は今後どのように考えているのか。
- A** 機能別団員制度の活用による消防団員の確保や広域応援体制の強化を進めるとともに、消防署、消防団、地域住民との連携を深めていく。

地域救急支援体制の構築

- Q** 地域救急支援員制度、住民救命講習の拡充、消防団員への応急手当普及員資格取得支援、地域搬送協力員制度などについて、今後具体的に研究・検討していく考えはあるのか。
- A** 現在、消防団員への応急手当や普及員制度は導入している。普通救命講習などの充実を図るとともに、地域救急支援制度については他の自治体の取り組みを参考に研究していく。
- R** 災害時に地域住民の命を守るためには、消防力の充実に加え、地域住民が支え合う体制づくりが重要であるとする。今後も周辺地域の消防・救急体制の強化を求める。

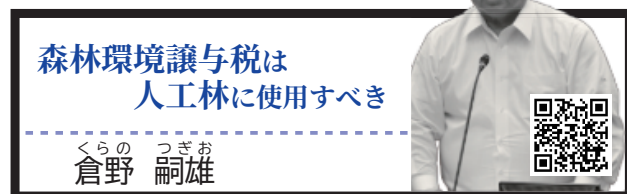


高梁国際ホテルについて

- Q** 市は高梁国際ホテルの所有者として現経営者との契約延長を3回続けてきたが、令和8年8月以降の契約はどうするのか。
- A** 現経営者から出された経営計画書は実行可能であると判断している。また、民間企業から外部人材による経営改善を3年間実施する方針であるため、契約も延長する考えである。
- Q** 市が所有し続けることが本当に最善なのか。期限を切った出口戦略を検討すべきではないか。
- A** 高梁国際ホテルはまちづくり、市民、観光客及びビジネス客にとって有用な都市施設である。まずは外部人材による経営改善を実施することが一番と考える。

教育行政について

- Q** 市の教育の「最大の課題」は何か。どう取り組んでいくのか。
- A** 人口減少・少子化による教育環境の持続可能性の低下を危惧している。人口減少の中でも、多様な学びを確保し、一人ひとりの力を最大限に引き出すための教育環境の維持、向上に今後も努める。
- Q** 教育長として、教育委員会の運営はどのようにリードしているのか。
- A** 教育行政の複雑化、多様化を感じている。教育委員会一つの所属だけで対応できる課題ばかりではなく、それぞれの専門性を生かし、各分野が連携しながら課題解決に取り組んでいく。チーム教育委員会として「至誠惻怛^{しせいそくだん}」の志で運営していく。



森林環境譲与税について

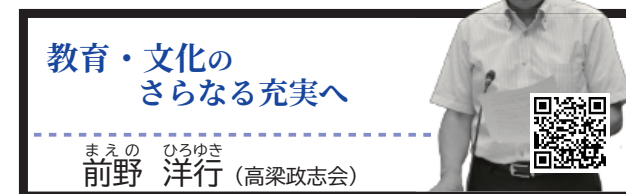
- Q** 市への森林環境譲与税の配分額はいくらか。
- A** 令和7年度は5527万円、令和6年度は5245万円である。
- Q** 木質バイオマス安定供給補給事業に2060万円の補助金が使われている。適正な事業なのか。
- A** 令和4年に市内業界団体から未利用材搬出等に関わる助成金の要望が出ている。広葉樹など天然林が8割を占める本市の森林整備の施策に合致しており、そのための財源として活用している。

工業団地について

- Q** 巨瀬町地内にある有漢工業団地関連造成事業が休止となっている。今後どうするのか。
- A** 現在は有漢工業団地二期分の工事が進んでいる。工事完成後に進出する事業者の事業内容によって、休止となっている巨瀬町の関連造成事業の展開を検討していく。
- Q** 利用することが見込めないならば、住宅地として活用してもよいのではないか。
- A** 市にとって定住対策は重要であると認識しているが、現段階では分譲宅地に変更するという方針は持っていない。方針変更の必要が生じた場合は分譲宅地造成も候補に含めて、あらゆる方策を検討していく。

観光施策について

- Q** 備中松山城周辺の支障木を伐採して、天守がより見えやすくするべきではないか。
- A** どういった形であれば備中松山城周辺の国有林が計画的に伐採できるのか、引き続き要望していく。



高梁市図書館について

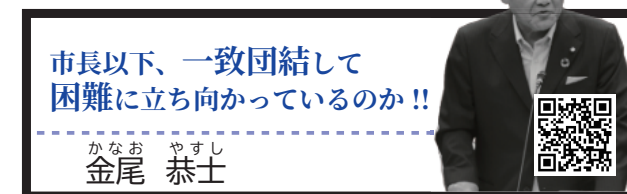
- Q** 令和9年2月に開館10周年を迎える高梁市図書館のこれまでの評価はどうか。
- A** 市民からの評価も高い施設であり、市長として、私自身も高く評価している。一方で、サービスの維持には財源的及び人的な裏付けが必要となる。今後の運営に向け、市と指定管理者がお互い、どういった努力をしていく必要があるのか協議を進めていきたい。

やえがき 八重籬神社の石碑について

- Q** 碑文の内容について二次元コードの貼り付け等により解説できる仕組みはできないか。
- A** 碑文の内容の説明を充実させることは良いアイデアである。関係部署と協議する等、前向きに検討していきたい。

教育を通じたまちづくりの推進について

- Q** 令和7年5月に開催された「山田方谷150年祭記念フォーラム」において、宣言文が採択された。宣言文の骨子は「方谷先生の想いを形に」することで、その根底は教育であるといった趣旨であった。教育を通じて、まち全体に「学ぶ気風」があふれていることが重要であり、新たな教育理論や思想を打ち立て、教育活動を展開することが必要と考えるが、教育長の見解を問う。
- A** 市には、幼稚園・保育園から大学まで一貫した教育の環境があり、地域と一体となった学びが既に進行中である。今後、一貫教育の中で方谷先生の考えを活用する場を積極的に推奨し、夢と知恵と元気を持って進んでいきたい。



市の事務処理について

- Q** 市職員のコンプライアンス条例を早期に制定すべきではないか。
- A** 早い時期に方向性を整理し、条例制定に向けて取り組んでいきたい。
- Q** 京セラの元会長の伊藤謙介氏が「トップと職員がバクトルを合わせていくことが大切」と力説していた。市長は今後どうしようと考えているのか。
- A** 目配せがまだまだ欠けていると私自身が感じている。不適切な事務処理を絶対再発させないという、トップの熱量を現場に伝えていくことが不可欠である。
- R** リーダーシップをしっかりと発揮していただくことを期待している。

デジタルにさらされている子どもたちの環境改善を!!

- Q** 過度なデジタルの使用が基礎学力の定着に影響を与えている。国立情報学研究所の新井紀子^{あらいのりこ}氏がRST（Reading Skill Test）（文章を正しく読み解く力の試験）を50万人の子どもたち、社会人に実施している。市の子どもたちの弱いところはどこかを知ることが必要ではないか。
- A** 文章を読み取る力の低下は実感している。原因の究明と対処に取り組んでいきたい。



デジタル時代における教科書の重要性